

# 研究所だより

第302号

2010年11月29日

発行：土佐清水市教育研究所

TEL 82-3015

## <子どもに好かれる先生5つの法則>—甲本 卓司 著

### 2, 厳しい先生が好き

#### (1)、叱る3原則で厳しく叱る

子どもには厳しく接すればよい。

しかし、いつもしかめっ面で、眉間にしわを寄せてという意味ではない。愛想もなく、ぶっきらぼうに答えるのでもない。凜とした姿勢で、「だめなことはダメ」という規範意識を教え込むのである。

ある一線を教師が決めておき、その一線を越えたときは、厳しく指導するのである。指導なので、感情に任せるのではない。

よくあるのが、注意する回数が増えていくと、だんだんと感情的になり、語気もだんだん激しくなってくる。いわゆるお説教は子どもの心に響かない。あくまで心は冷静に保ち、「絶対に許せない」という気概を持って指導するのである。

このようにならないためには、教師の中で叱る基準を持っておいたらよい。野間芳宏氏の叱る3原則である。

①. けが・命にかかわるとき

②. 人が嫌がることをしたり、分かっているやっつけた時（いじめ・意地悪、悪口、ごまかし、ずる、冷やかし）

③. 何回も注意しても態度を改めないとき

教師はこの基準に則して、子どもに接すればよい。ただし、叱る時は本気で叱ることである。教師の本気を見せることで子ども達に社会のルールが教え込まれる。

#### (2)、全員に同じように叱る

学年初めに叱る3原則を伝える。これを1年間続ける。ぶれてはいけない。ダメなことはダメだと教え込むのである。全員に同じ基準を示し、実行することでルールが教室内に作用する。無法地帯の教室を子ども達は誰も望まない。

叱った後は、何事もなかったように笑顔で接する。努力して頑張っていることには心の底から褒めるようにする。それができるのが教育のプロである。そのような先生を子ども達は慕うのである。

(次回・明るくやさしい先生が好き)

## <DVD・ビデオ購入 ご利用ください>

DVD—アンネの日記

ビデオ—語り部シリーズ「ハンセン病」

せかいいちつくしいぼくの村（アフガニスタン・パグマン村の物語）

## <土佐清水市の伝説3（民話）>

### 【中須賀の地蔵】

足摺岬の岬ホテルからまっすぐ沖へ600米程行ったあたりに中須賀という礁がある。この礁は水面より15尋（約25M）程でブリ、ムロが群がる場所である。村の漁師がその上で漁をしていた。すると網に地蔵がかかった。こんな物がかかってもしようがないと海に放り込むと、しばらくしてまたかかった。これはと思いお祀りすることにし、現在のホテル椿荘の所に祭った。しかしホテル椿荘が改築するに及んで金剛福寺に移された。

これより、中須賀は昔陸続きだったとか、昔は島で寺があったのだなどと言われるようになった。



### 【鈴江和尚】

鈴江和尚は現住職の先々代の和尚で阿波の生まれで天猿和尚の弟子であった。この和尚は厳しい戒律を守り通した人で、寺の物は一つも私有せず、為に金剛福寺は以前にも増して富な寺になったという。その逸話。

- 1, お堂に賽銭と一緒にまかれた米を炊き、なくなるまで何度も炊き直して食べた。夏などは臭くてとても食べられなかったそうである。またおかずは味噌と漬け物が2切れの、全くの精進料理だったという。
- 2, 障子はお布施の紙で間に合わせ、全部まっ黄色だった。
- 3, 小学校横の道路工事費用を出し、現在も碑が残っている。また当時貧しかった伊佐部落の人たちに、伊予から米や味噌を買ってきて分け与えたという。
- 4, 当時、寺は金剛福寺だけだったので、中の浜、窪津、松尾、伊佐、以布利等々一日に多いときで15件程の葬式があり、朝三時頃起きてその予定をこなしていたそうで、よく木などにもたれたまま眠っている和尚を見かけたという。

大正4年、当時流行したスペイン風邪がもとで、65歳でなくなった。「私有物一切なし、すべてこれ寺有なり。」と残して死んだという。生きていた間、一度も横にならず眠る時も坐禅のままの坐睡であったので「いざり棺」が用いられたと云うことである。

### 【女鹿（女城）伝説】

松尾部落、旧港の東突端の岬に女鹿神社がある。旧3月15日は祭礼で、今も安産のお守りを求めて遠くから参詣する人があるという。

源平合戦の後、雌鹿の背に乗った高貴な女性が、この浜に流れ着いた。女性は妊娠しており、まもなく女児を出産するも息を引きとってしまう。その出産の時の衣を洗った川を女川といい、松尾の港にそそぐ西の小川がそれである。

女児は里人の慈愛のもとに成長し、やがて、妊娠、出産婦の世話をするようになる。不思議と、この女性の手がける妊婦は痛むことなく安産であり、子も順調に成育することより近在の評判になったという。

いつの頃からは知らないが、この岬に祠が建てられ、妊婦が参詣に来るようになり、お守り札が売られるようになった。